



サイジャーナル

月刊
23-11-12
第400号

日本サイ科学会 平成23年11月1日発行

本部 〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 郵便振替 00100-2-15344 日本サイ科学会
電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp

東 北 〒981-0904 仙台市青葉区 旭ヶ丘1-36-1 アサノビル201号 佐佐木 康 二 ☎ 022 (279) 0908-FAX 022 (274) 0097	中 部 〒503-0981 大垣市松町1290 山 田 哲 三 ☎ FAX 0584 (91) 1192	北 陸 〒920-0864 金沢市高岡町12-45-1F ホリスティック健康科学研究所内 佐 藤 禎 花 ☎ 076 (234) 6634	関 西 〒659-0011 芦屋市六麓荘町 (事務局) 9-39 木 村 のり子 ☎ FAX 0797 (22) 6425	九 州 〒862-0976 熊本市九品寺 1-9-7 金 子 輝 夫
---	--	--	--	--

十一月本部例会のお知らせ

心霊現象について

講師 小林 信正氏

今年の三月十一日、東日本では未曾有の大災害がありました。いま日本のみならず世界各地で異常気象による津波、猛暑、干ばつ、台風、洪水等々の自然災害に見舞われています。さらに原発事故は言うに及ばず、環境汚染や自然破壊などの影響で私たちの住む地球環境は急速に悪化し、生命の危機に晒されています。これは人為的災害であり、まさに人類が自らの手で自分の首を絞めるような行為といえましょう。

一方、政治の混乱、経済の破綻、教育の荒廃、モラルの低下、家庭の崩壊など混沌の一途を辿っています。さらに凶悪犯罪は激増し、毎年自殺者も三万人を超えている現状です。

いまは改革、激動の時代といわれ、旧来の価値観が打破され、新しい価値観へと変革する陣痛の時ののかもれません。それは20

12年問題の「アセンション」といわれる次元上昇と符合するものなのでしょうか。

明日が見えない現代、私たちは何を指針に生きてらよいのでしょうか。

人は必ず死ぬ運命にあります。死んだら肉体は灰となり一巻の終わりと考えるか、肉体という衣を脱ぎ捨て霊魂は存続してあの世へ旅立つと考えるか。

「霊魂とは？ 死後の存続とは？ 輪廻転生とは？ 現世の意味とは？」

この問題は有史以来、洋の東西を問わず、文化、宗教、哲学上でさまざまに論じられてきました。この人生最大の命題を解くカギが、いまや宗教や哲学でなく心霊現象の研究にあるのです。

さまざまな心霊現象の映像を写真しながら解説を行い、そこから何を学びとるか、皆さんとご一緒に考えてみたいと思います。

東京キー局で長年心霊関係も含めた多くの番組を制作されたプロデューサーの御講演です。会員の皆様はご友人・知人をお誘いして、是非ご参加ください。

今月号の記事

- ◎十一月本部例会のお知らせ
- ◎御寄付御礼
- ◎事務局からのお知らせとお願い
- ◎十二月本部例会予告
- ◎第14回宇宙生命研究分科会予告
- ◎関西サイ科学会十一月例会予告
- ◎関西サイ科学会十二月忘年の放談会のお知らせ
- ◎一月本部例会予告
- ◎六月本部例会報告
- ◎六月通常総会報告
- ◎第三五八回関西サイ科学会報告
- ◎第三五九回関西サイ科学会報告
- ◎未知能力・現象の出現状況(2)

●小林信正氏のプロフィール

日本サイ科学会理事。

(財)日本心霊科学協会常任理事。JMC相談役。

東京生まれ。旧東京写真大学(現東京工芸大学)技術科、慶應義塾大学哲学科心理学専攻。フジテレビでは主に番組の企画制作に従事し、ドラマ、ワイドショー、ドキュメンタリー、バラエティーなどでディレクター、チーフプロデューサー、制作部長を務める。

大阪万博、筑波科学万博などの企画にも携わり、現在は「オーブ」や「特異能力」の研究に努めている。

日時 平成23年11月12日(土)

午後1時半～5時

会場 北とびあ7階701会議室
交通 J R京浜東北線王子駅下車

徒歩2分、ホーム最北端(赤羽寄り)の階段を下り改札口を出て見える高層ビル

会費 会員 二〇〇〇円

一般 三〇〇〇円
学生 一〇〇〇円

「心を科学する博物館」と
一般の御寄付御礼
(10/10受領分まで)

金十万円 佐々木茂美 様
金六万円 木村 陽一 様
金一万五千元 佐藤 禎花 様
金二千二百円 カリー山山口様

◎事務局からのお知らせと
お願い

☆本部例会や大会等での運営ボランティア募集

受付での資料配付、講演者スライド発表時の電灯操作、コンピュータ操作などのお手伝いをしていただけませんか。当日の参加費が無料になります。

●左記にご連絡願います。

office21@psjmail-box.ne.jp

◆ ◆ ◆
十二月本部例会予告

忘年会も兼ねた会員の体験
意見発表と討論の会

毎年恒例となっている一人の講師の講演ではなく、参加者の皆様からのUFO、超常現象、心霊現象、オーブ等サイ現象に関する目撃・体験や意見の発表、それらをテーマにした意見交換・討論等、気楽な感じで懇談会を開催致します。

今回最初にまとまって何か発表したい方一、二名に20分位ずつで口火を切って頂いて、引き続き出席者の皆様から自由に発表して頂きます。

皆様の中で、ご自分で撮った不思議な写真、VHSテープ等もお持ちでしたら是非ご持参してください(VHSテープやDVD等をお見せしたい方は、装置予約のため早めに事務局にお知らせ願います)。

スプーン曲げ等の念力、透視能力・予知能力などサイ能力に自信のある方、または友人、知人に能力者のいる方は是非お連れしてください。また、ご自分では気が付いていないのに、思いがけない超能力を発揮する方もおられるかもしれません。

特別講師はおりませんが、参加者の皆様の自由な発言でいつも楽しい会になりますし、終了後の懇親会も面白い話題で盛り上がります。

参加費は、会員、一般とも千円です。で、気楽にご参加願います。※最初にまとめて発表したい方は、事務局にメール、またはFAX

願います。

日時 平成23年12月10日(土)
午後1時半～5時

会場 北とびあ8階805会議室
交通 J R京浜東北線王子駅下車

徒歩2分、ホーム最北端(赤羽寄り)の階段を下り改札口を出て見える高層ビル

会費 一〇〇〇円

◆ ◆ ◆
第14回宇宙生命研究分科会

◆ ◆ ◆
第5回 アセンション・シンポジウム

日時 2011年12月21日(水)

午後6時～9時30分

会場 品川健康センター会議室

(品川区北品川3・11・22)

03・5782・8507

交通 京浜急行新馬場駅徒歩2分

J R京浜東北線大井町駅東

口から東急バス渋谷駅行で

「新馬場駅前」下車

一般会費 五〇〇円

会員会費 一〇〇〇円(日本サイ科学会・サトルエネルギー学会・太

陽の会・国際問題研究会会員)
※会員以外の方の参加も大歓迎

マヤの長期暦が終焉を迎える2012年まで、泣いても笑ってもあと1年！世界の政治体制は2012年にガラリと変更します。2011年は東日本大震災、台風12号の猛威、円高等々でニッポンも混乱を極めました。激動の時代にあつて、我々ニッポンジンはどうなつてゆくのか？ そういった問題を見据えて、今年もまたアセンション・シンポジウムを開催します。皆さん、どうぞふるつてご参加ください。

◆ ◆
**関西日本サイ科学会
十一月例会のお知らせ**

「菅原道真公の知られざる秘話、篆書(てんしよ)の持つパワー、たつ(龍・竜・辰)の字の不思議」

講師 塩小路 光孚氏

日時 平成23年11月12日(土)
午後1時半～5時
会場 大阪科学技術センター
七〇一号室
交通 地下鉄四つ橋線本町駅下車
北へ徒歩5分 靱公園内
会費 会員 二〇〇〇円
一般 三〇〇〇円
問合せ0797・22・6425
関西日本サイ科学会事務局まで

◆ ◆
**関西日本サイ科学会
二〇二二年忘年の放談会**

非会員の方も大歓迎です。
十二月の研究集会はお休みです。
日時 平成23年12月10日(土)
午後5時30分より
場所 山海倶楽部
06・6443・0209
※大阪市西区京町堀1・4・3
TCF肥後橋ビルB1階
※参加ご希望の方には会場案内図
をFAX等でお知らせ致します。
参加費 四五〇〇円

※12月7日(水)までに、事務局
木村までお申し込み願います。
0797・22・6425

◆ ◆
一月本部例会予告

縄文スピリットでサバイバル

講師 ミッツィ植田氏

3・11以降、これまでの生き方・物の見方・価値観が劇的に変化しました。今こそ日本人がDNAの中に持っている真の「日本人魂(スピリット)」の底力を發揮するときがきました。

これからしなければならぬことは「サバイバル」です。自分の生存を他者に依存するのではなく、農地の確保、水の確保、汚染されていない食料の備蓄、サバイバルに必要な情報を共有できるコミュニティへの参加など、「自給自足」のライフスタイルに転換することが、生き抜くために必要不可欠です。
戦争もなく、思いやり・分かち

合いで共存共栄の社会を1万6500年も継続した「縄文スピリット」の智慧に学び、日本人がこの原点に戻ればサバイバル可能です。マヤの予言、八ヶ岳山麓の縄文遺跡、リモートヴェーイング、直観力の鍛え方などを紹介しながら、これからの生き方について提言します。

※マクモニーグル氏とも親しく貴重なお話が聞けると思いますので、会員の皆様はご友人・知人をお誘いして、是非ご参加ください。

●ミッツィ植田氏のプロフィール
(株)UIC 代表取締役
・インターナショナル・ハグ協会 会長
・京都市生まれ。大学を卒業後、渡米。シエフィールド航空学院卒。独自に開発した脳力アップ法で、米国の「自家用飛行機パイロット」「地上教官」免許を異例の2カ月で同時スピード取得。

米国FAA連邦航空局の最難関国家試験と言われる「運航管理者免許」日本人女性初の合格者。コンチネンタル航空で運行管理者としてオペレーション業務に携わる。現在、教材開発、通訳、翻訳、

作家活動を行うかたわら、「脳力開発セミナー」「超英語法セミナー」「リモート・ヴェーディングの手法を使った「直観力養成セミナー」などを開催している。

著作に「マクモニーグルが語るリモート・ヴェーディングの世界」、「ハミシンク入門」、「浄化準備」、「覚醒準備」、「あなたも残り5%の成功者になれる」、「ミッツイの夢がかなう7つのステップ」、「DVD「チャクラ この神秘なる輝き」覚醒へのレインボウ・ブリッジ」、「CD「自宅でできる簡単イルカセラピー」、「ミッツイの「夢がかなう」魔法の音」

日時 平成24年1月14日(土)
午後1時半〜5時
会場 北とぴあ7階701会議室
交通 JR京浜東北線王子駅下車
徒歩2分、ホーム最北端(赤羽寄り)の階段を下り改札口を出て見える高層ビル

会費 二〇〇〇円
一般 三〇〇〇円
学生 一〇〇〇円

六本部例会報告

未知エネルギーの研究とチャネリング

講師 井出 治氏
(クリーンエネルギー研究所)

今日は私が3月の震災直後に出席した米国のメリーランド州立大学のほうで、最近できたインバータの結果を発表してきましたので、前半はその内容を中心にお話し、後半はチャネリングのお話をします。

※最初に以前開発していた「エーテルエンジン」の動画を紹介する。

3月に私が出席した国際会議「Space Propulsion and Energy Science International Forum 2011」は米国の国防総省やNASA、エネルギー省、空軍研究所がバックで主催する宇宙航空関係の学会です。ちょうど一年前に知り合いの何人かにインバータを公開実験した時に、知り合いの一人からこの国際会議を紹介していただいたのですが、早速アブストラクトを

投稿しましたら、3日も経たないうちに是非とも発表しろという返事が来ました。

会議は3月15日〜17日開催で、私は16日のメイン発表の時間帯で発表させていただいたのですが、外国人の発表は私とドイツ人の二人だけでした。ご存知のように3月11日は東日本大震災があったのですが、日本を出発した13日はぎりぎり電車が動いてくれて絶妙のタイミングで出発できました。



発表するまでが大変だったので、アブストラクト投稿の後、ドラフトペーパー(簡単な論文)を9月までに提出せよと来て、何とか間に合わせたら、アクセプト、すなわち「あなたの論文は受け入れられたので発表してOK」が来

ました。その後メールでの質問が大量に来てそれに対応しましたが、その中で「効率は何？」という質問がありました。私はドラフトペーパーの段階では一〇〇%以上の超効率(Hyper Efficiency)のことを隠していたのですが、そのことを伝えて、「この内容で学会発表できるか？」と問い合わせました。「いったいどういう方法でどんな機械を使ってそういうデータを出したのか？」と詳細に聞いてきました。それにきっちり答えることで「発表はOKだ」と言ってきました。

日本サイ科学会は別ですが、日本の通常の学会でしたら、超効率を言った時点で、一〇〇%拒否されるでしょう。ここが日本の学者のダメなところで、アメリカの学会はしっかりと詳細を問い合わせきて、納得すれば最後にOKを出すのが、偉いところです。

私の論文のタイトルは日本語訳すると、「Positive EMF」で駆動されて、なおかつ過渡現象との相互作用によって、駆動される超効率のインバータですが、こういう内容で堂々と発表できるのが、アメリカのすごいところです。

インバータというのは直流電

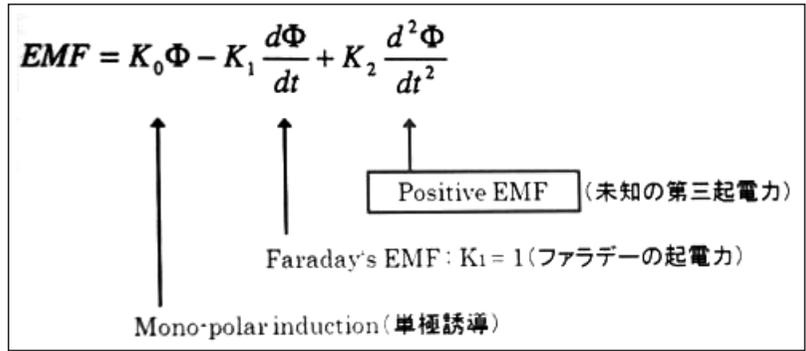
源を交流電源に変換する装置で、我々の日常使っているパソコンや携帯電話や他の電気製品のほぼすべてに入っております。

私のインバータの特徴は、高速のスパイク波と反発磁場を使い、過渡現象と過渡現象を重ね合わせて駆動することで、現在は通常のインバータの4倍の効率が出ています。

"Positive EMF"という言葉は、私の創りだした起電力の概念でして、私の最初の米国応用物理学会の論文に出てきますが、「特殊な磁場構造をもった共振回路において非常に異常な電圧が発生する」という内容の論文です。この中で私が言いたかったのは「未知の"Positive EMF"が存在する」といことです。

"Positive EMF"は正(+)の起電力すなわち入力電流と同一方向であって、ファラデーの逆起電力とは逆方向となりファラデーの起電力からは独立しております。

通常のEMF(起電力)はイギリスの科学者マイケル・ファラデーが電磁誘導として発見したものです。我々が大変な発見となります。我々が現在使用している電気はすべて、ファラデーの電磁誘



導の法則から造られたものです。水力・火力・原子力発電であろうと、自転車灯の発電器であろうと、車の発電器であろうと、すべてファラデーが一八〇年くらい前に原理を見つけたものを、いまだに使用しております。皆さんも聞いて意外だと思われるかもしれませんが、

これまで発電方法には何一つ進歩がないのです。ファラデーはもう一つ大事な起電力である「単極誘導」を発見しました。ファラデーの電磁誘導の実験装置は現在でも、イギリスの大英博物館で保存されています。イギリスやアメリカでは重要な科学的発見をしたものを、すっかり残しております。日本もその精神は見習ってほしいものです。

"Positive EMF"の論文をアメリカの応用物理学会で発表しましたら、NASAのラングレー研究所からも案内がきましてこちらでも発表してくださいということ、ちょうどそのとき、この「非線形電磁誘導理論」というものを創ったばかりだったので、渡りに船、ということ、早急論文を出しました。1999年12月にサンタバーバラに行つて、発表してきました。

この2回目に発表した論文は「ファラデーの起電力とは独立した起電力が存在する」という内容です。なぜここまで言ったかというところ、1回目の論文で見つけた"Positive EMF"には法則性があるということを見つけたということが大事であり、もう一つのポイントはファ

ラデーの法則は、磁束の時間による一次微分なのですが、"Positive EMF"は磁束の時間による二次微分以上にあたるのではないかと思います。

上図のファラデーの起電力のK1の数値は1となりますが、ファラデーは単極誘導も発見しており、これまで見つかっていない起電力はこの2つだけなのです。私はこれに対して起電力はこんなものではなく、ファラデーの起電力のもうひとつ上の高次項に符号が+の第三の起電力があるのではないかと、これを仮定すると今まで出てきた現象が説明できるのです。

ところが起電力はこんなものではなく、さらに磁束の三次以上の微分がマイナスとプラス交互で続く無限級数となるのではないかと、いう仮説を出しました。自然現象はリニア(直線性)ではなく多くが無限級数でより精密に説明されます。

二次微分以降は未知の起電力となりますが、私が非常に興味をもっているのは、プラス方向の第三の起電力であり、これをうまく引っ張り出すようにすれば、すなわちこれを使う発電機を創れば「永

久機関」ができるということですが。以上がNASAのラングレー研究所で発表した内容です。

この後、私は「エーテルエンジン」の研究をストップしました。というのは、モーター系は機械損失が生じるのでやっかいな問題となります。それを消すために、完全にステイックな状態で発電機ができないだろうかということで、それを追求したのが二〇〇〇年以降やっている研究です。

やり始めた直後に120%以上の効率が出たのですが、再度実験すると再現性がないのです。それでも一度甘い汁を吸ったのでもう止められないということで続けたのですが、100%出るか出ないかのすれすれの状態が9年間続きました。そして2009年に110%の効率がコンスタントに出るようになり、「やった!」と思ったのですが、その後また出なくなつて、ガツクリしたのです。そういうことが何回か続いた後、一昨年の12月の終わりに、大きく頭の切り替えを行い、特別な方法で行けそうだと分かり、昨年1月の初旬にすべてのものが完成しました。

その状態は今でも続いておりまして、まだどんどん発展しております。今回だけは再現性が一年半以上続いております。

後半は家内を通して交信したチャネリングから得られた情報です。それは別宇宙の異星人と別空間の何種類かの地底人などです。宇宙人は4、5種類と交信しています。最近受けて面白かったのは銀河連合から来た宇宙人です。漫画みたいな話ですが、まともなメッセージを載せております。宇宙に「意識体」からもメッセージを載せます。

来てうれしいものとうれしくないものがありますが、一番うれしいのは「聖母マリア」の聖霊です。よくカトリックの教会などにある絵画のなよつとした感じではなく、目鼻立ちがはっきりしていて、えらも張っていて耳がとんがっています。

とにかくいろいろな存在が来ますが、私の研究に関係する人ではニコラ・テスラやボルタ電池のアレッサンドロ・ボルタ、また聖霊レベルでは、白龍、黒龍、青龍、白蛇など、坂本龍馬や私の先祖ら

しいのですが河野水軍の武士なども来ました。

チャネリングと関係してここ一年で経験した不思議な、あるいは面白いお話をします。先日京都にお花見に行ってきたのですが、銀閣寺の近くにある、私が学生時代によく散歩した「哲学の道」でのお話です。家内と二人で歩いていたら、前のほうに可愛い白い猫がいたので見ていたら、猫が疎水の中を見つめていたので、ちょっと声をかけたら猫独特のツンとして、向こうを向いてしまいました。家内に「じゃあ行こう」と行って歩いていたら、家内が「あつ猫がついてくる!」と言ったので、「えつ」と私が見た瞬間、私の足もとでその猫が消えてしまったのです。

家内がちよつと不気味になつて、ホテルに向かい夜くつろいでいたら、二条城の人柱(男)がやってきました。悪い怨念をもっているわけではないのですが、「二条城には来るな」と言っていました。猫の件も聞きましたら、「京都では物の怪も一杯いるのでそんなことは当たり前前だ」と言っていました。

私は昔からUFOをよく見るのですが、数日前にまたオレンジ色

の月の大きさをくらいのUFOを家内と見まして、チャネリングしている宇宙人に、「あれは君のか?」と聞きましたら、「いや違う」と言っていました。私はチャネリングをしている聖霊の誰でも崇拜しているわけではなく、友達感覚でつき合っております。日本人はすぐ何でも崇拜してしまうのは悪い傾向で、民度が発展しないのです。

また昨年夏のことですが、夜中に洗面所の壁にかけてあったドライヤーが勝手にスイッチが入って回り始めたので、家内に何か変なものが出ていないか見てくれと言ったら、別に悪い感じはしないということ、洗面所に行つて、関係ないスイッチを触ったら、ドライヤーがオフになったのです。

ちよつと不気味になつて、仲のいい聖霊に聞いてみたら何も言わなかったのですが、最後に宇宙人に「君がやったのか?」聞いたたら、「夏の夜の納涼だ!」と答えたのです。そういう付き合い方をしているのですが、「面白いでしょう!」ときどき彼らは存在の証拠を3次元の世界に出してくるのです。

私の今回の研究に関しまして、宇宙人、地底人が関わっているの

ですが、すぐそばで私の実験を見ているのが分かったのは、帰宅してチャネリングのメッセージを受けたときに、「この部品が壊れているよ」と言われて、翌日研究所へ行ってみると、確かにそこが壊れているのです。ただ、宇宙人も地底人も私の疑問や問題に対して、答えをそのまま言うことは絶対ありません。答えにつながるようなことを婉曲的に言うことはありますが、やはり本人が自分で答えを見つけないとつまらないことが分かっているからです。

六月通常総会報告

◎平成22年度本部事業報告

1. 会員の現状(平成23年5月末)

日現在)

維持会員	7名
正会員	202名
学生会員	29名
準会員	58名
賛助会員	1名
合計	297名

2. 講演会、研究集会

本部は10月の「第21回全国大会」を含み、計12回の集会を開催した。

◎本部例会・大会(敬称略)

期日 講演者 講演タイトル

平成22年

4月10日(土) 根本泰行「映画『ウォーター』にみる水の真実」

5月8日(土) 堤裕司「レイライ」と富士塚信仰」

6月20日(日) 久保田昌治「水とは・・・水は生体内では勿論のこと自然界でも今我々が考えているよりはるかに重要な働きをしている。」

7月10日(土) 木下次男「福島県飯野町『千貫森謎空間』補足・・・ UFO学について」

9月11日(土) 浪平博人 苗鉄軍 小林泰樹「感じられるサイエンス」

10月10日(日) 第21回全国大会

シンポジウム「2012年問題とサイエンス」

11月14日(日) 秋山真人「夢診断と未来予測」

12月12日(日) 宇治橋泰志「新たな予防医学を目指して」

平成23年

1月8日(土) 新年会も兼ねた会員の体験意見発表と討論の会

2月12日(土) 石川和孝「世紀末的神示と予言の陰陽道的思考」

◎分科会
宇宙生命研究分科会

2010年
7月17日(土) 第11回「第4回 UFO & ORB シンポジウム」

12月21日(月) 第12回「アセンション・シンポジウムⅢ」

3. 総会
平成22年6月20日

北とぴあ701会議室で開催

4. 全国理事会・評議員会
平成22年6月20日

北とぴあ701会議室で開催

5. 本部理事会
第154回～第161回を4月、5月、7月、9月、11月、12月、1月、2月と8回開催した。

6. 出版物「サイ科学」第32巻
第1号を発行した。

「サイの広場」は「サイ科学」と

合本した。

「サイジャーナル」第390号から第396号までを発行した。

◎平成23年度本部事業計画

10月に創立35周年記念大会を開催する。シンポジウムテーマ「パワースポット」

・月例会を8回(5、6、7、9、11、12、1、2月)開催する。

・本部理事会、全国理事会評議員会を開催する。

・サイジャーナルを6回発行する。

・「サイ科学(＋サイの広場)」を発行する。

・公式サイトを運営する。

・「心を科学する博物館」の資料を整備する。

・その他

◎活動方針として

・刊行物に種々の分野の解説・応用や新鮮な情報を増やす。

・会の活性化を図るため、例会等でアンケートを実施、活用する。

・インターネットの公式サイトやメイリングリストを活用する。

・雑誌等の告知欄やメールマガジンに行事の予告を載せていく。

・地方日本サイ科学会との連携を

深める。

- ・ 地方からも講師を招く。
- ・ 理事や若手の幹事（理事候補）、評議員を増やす。
- ・ その他

● 地方日本サイ科学会

東北日本サイ科学会

会長 佐佐木 康二

◎ 平成22年度事業報告（敬称略） 平成22年

（会場は5月、6月以外は仙台市青年文化センター）

4月10日 総会及び第172回研究会

「平成21年度事業報告、平成22年度事業計画」

「量子テレポーテーションでPsi能力を発揮する！」佐佐木康二
5月3日「念写実験会」佐佐木康二（福来心理学研究所との共催）
（情報・産業プラザ）

5月4日「仙台瞑想会H22GW研修会」への協力（超能力発揮実験）（情報・産業プラザ）

6月12日 第173回研究会

「ソウルメイトや因縁がわかるアルゴリズム」佐佐木康二（旭

ヶ丘市民センター）

8月12日「念写実験会」佐佐木康二

（福来心理学研究所との共催）

8月14日 第174回研究会

「さわらぬ邪霊にタタリなし

霊の『物理』」佐佐木康二

10月9日 第175回研究会

「地球は類魂だった！ UFO

と2012年問題」佐佐木康二

12月11日 第176回研究会

「カルマの結び目を『リーマン

予想』で解く」佐佐木康二

平成23年

2月12日 第177回研究会

「方位は、神様の価値観の現れ

だった」佐佐木康二

◎ 平成23年度事業計画

東北日本サイ科学会は、創始者

岡田幸千生が掲げた目的、「聖人及

び超能力者の先人たちの出来るだ

け深く探求して、誰でも本来的に

持っているはずの超能力を万人に

成長させて人類の活動能力を本質

的に高めること」を今後も目指し、

次の事業を行う。

1. 定例研究会の開催

定例研究会を偶数月第2土曜日に開催する。先人や研究者の成

果を学び、また各人の知恵と知識を持ち寄る。サイ科学関係の

著名人の講演会等は計画としては準備せず、機会がある折りに

考慮する。

2. 「東北日本サイ科学会研究抄

録」の編集

3. 長期研究テーマの推進

サイ現象の観測量化―「念写計

等の開発、気・意識の種類の見

分け方、「念写」写真・「オーブ

画像等の分析・検証（福来心理

学研究所との共同研究）、意識純

化・宇宙意識への目覚め、地震予

知、数秘術・秘数の科学性の研

究、フリー・エネルギー装置の研

究、過去世・霊性・霊能の研究

4. 講演会等の開催

「念写実験会」、「大震災と意識

の歪み」等のテーマで8月に講

演会を開催する（福来心理学研

究所、仙台瞑想研究会と共催）

5. 会推進スタッフの充実、本部

会員・会員の勧誘

6. 「岡田文庫」（福来心理学研

究所との共同事業）及びビデオ資

料等の閲覧サービス・管理

中部日本サイ科学会

会長 山田 哲三

◎ 平成22年度事業報告

研究集会Ⅰ

日程 平成22年4月10日（土）

会場 つるまい会館

内容 丹羽氏、小川氏、高田氏、

磯部氏、山田氏発表（22

名の参加）

研究集会Ⅱ

日程 平成22年9月11日（土）

会場 つるまい会館

内容 会員3名の発表

◎ 平成23年度事業計画

内容 会員数名の研究・体験発表

を中心に出席者で勉強会を行う。

日程 第1回 平成23年5月14日

会場 つるまい会館

第2回 平成23年9月予定

会場 つるまい会館

北陸日本サイ科学会

会長 佐藤 禎花

◎ 平成22年度事業報告（敬称略）

平成22年8月29日（日）

「ダウジングとは何か〜ダウジ

ングから医療ダウジングまで〜」

堤裕司（日本ダウザー協会会長、

日本エネルギー医学協会理事）

◎平成23年度事業計画

平成23年6月26日(日)

第1部 基調講演「2012年問題とサイ」阿久津淳

第2部 UFOトークバトル

ナビゲーション「UFOの最新情報」竹本良

ガチンコトークバトル「UFO問題と人類の未来」飛島竜一×竹本良

講師 阿久津淳先生(日本サイ科学会理事・科学問題研究者)

竹本良(科学問題研究者)

飛島竜一先生(フリーランス・科学ジャーナリスト)

平成23年度の計画につきまして、6月、11月、3月の予定。

関西日本サイ科学会

会長 河野 明夫

◎平成22年度事業報告(敬称略)

平成22年度は下記のように8月、12月を除き、22年4月(347回)から23年3月(356回)の10回開催した。参加者は会員124名非会員223名合計347名で、非会員が伸びている。

平成22年

4月17日(土) 吉田信啓「最新資料の石造遺跡のサイ科学的比較考察」

5月15日(土) 鶴田光敏「幸福への波動」

6月19日(土) 天野聖子「自己実現は大いなる自己(真我・高我またはハイヤーセルフ)との対話で達成できる」

7月17日(土) 林和也氏「言葉は天からのおくりもの」

9月18日(土) 北村皓一「日本建国の神々とユダヤ」

10月30日(土) 古村豊治「なぜあなたに大きな奇跡がおこらないのか」

11月20日(土) 浅川嘉富「UFO・パラレルワールド・アセンション」

平成23年

1月15日(土) 赤松瞳「最新脳科学と透視能力」

2月19日(土) 下村和弘「脳科学と健康：代替医療の疑問解消か!?」4つの法則(脳/心/身体/栄養)から考える」

3月19日(土) 重松昭春「日本人の生き方と21世紀の未来」

◎平成23年度事業計画(敬称略)

平成23年度は下記のように8月と12月を除き、23年4月(357回)から24年3月(366回)の10回開催する予定である。

平成23年

4月19日(土) 芳野武人「誰でもできる一日でできる気の活用」

5月21日(土) 瀬尾泰範「東日本大震災と今後の世界について占星学的解釈と予測」

6月18日(土) サアラ「科学と霊性の融合する時代」

7月16日(土) 高尾征治「オリジナルデザイン」の正32面体図象に潜む驚異の浄化パワー 日本各地を巡る『みろく』奉納紀行に学ぶ」

9月17日(土) 井出治「未知エネルギーの研究とチャネリング」

10月15日(土) 阿久津淳「2012年問題とサイ科学的進化」
「Scientific Evolution & 2012」
以降11月、1月、2月、3月研究集会開催予定。

九州日本サイ科学会

会長 金子 輝夫

◎平成22年度事業報告

九州部会としての事業は行いませんでした。

◎平成23年度事業計画

世話役を得て、できましたら講演会をと思っております。

●平成23年度日本サイ科学会役員
構成(*印は新任または改選)

会長 佐々木 茂美

理事長 浪平 博人

顧問 窪田 啓次郎、品川 次郎、西條 一止

地方会長兼理事

東北日本サイ科学会会長

佐佐木 康二

中部日本サイ科学会会長

山田 哲三*

北陸日本サイ科学会会長

佐藤 禎花

関西サイ科学会会長、副理事長

河野 明夫

九州日本サイ科学会会長

金子 輝夫*

理事(常任理事を含む)

阿久津 淳、大木 高伸、

大谷 宗司*、久保田 昌治、

小林泰樹*、小林信正、小牧昭一郎、佐々木律子、志賀一雅*、志村則夫、徳永康夫*、中島敏樹*、鯨江勇*、本間修二、前田知則、苗鉄軍*、渡辺宙明*
 幹事
 飯見勇、吉田一美

評議員

薄葉達夫*、占部浩一、加納愛信、鴨川裕司*、小久保孝行*、佐藤ひろ子*、杉立繁、高橋至誠*、谷口五月*、飛田洋子、前田稔*、三浦良江*、屋敷益男

監事

和田守央*

- (1) 本部役員・理事会は会長、理事長、顧問、常任理事、幹事によって構成される。
- (2) 常任理事は月1回開催される本部理事会に出席できる理事を示す。
- (3) 常任理事の選出は、理事の自己申告による。

〔平成22年度決算報告〕

収入		収入	
項目	予算	項目	決算
会費	2,000,000	会費(正)	1,469,000
例会	300,000	会費(学生)	168,000
寄付	400,000	会費(準)	261,500
本・他	200,000	会費(維持)	200,000
繰越金	2,477,739	会費(賛助)	50,000
合計	5,377,739	入会費	42,000
	例会収入	例会収入	509,000
	本会寄付	本会寄付	528,000
	本・他	本・他	186,630
	広告料	広告料	0
		前年度繰越金	2,477,739
		合計	5,891,869

支出		
項目	予算	決算
ジャーナル発行	700,000	699,330
会誌発行	300,000	393,876
人件費	1,500,000	1,531,000
例会会場費	100,000	127,320
講師謝礼	200,000	190,000
事務用品	200,000	103,967
郵送・配送料	100,000	65,870
通信費	100,000	77,224
会議・打合せ	80,000	85,907
交通費	60,000	45,700
事務所維持費	110,000	106,543
郵便・銀行振込料	20,000	22,770
予備(予稿集印刷代)	100,000	117,680
来期繰越金	1,807,739	2,324,682
合計	5,377,739	5,891,869

〔平成23年度予算〕

収入		支出	
項目	金額	項目	金額
会費	2,000,000	ジャーナル発行	600,000
例会	400,000	会誌発行	350,000
寄付	400,000	人件費	1,530,000
本・他	200,000	例会会場費	120,000
繰越金	2,324,682	講師謝礼	200,000
合計	5,324,682	事務用品	150,000
		郵送・配送料	70,000
		通信費	80,000
		会議・打合せ	80,000
		交通費	50,000
		事務所維持費	110,000
		郵便・銀行振込料	20,000
		予備	100,000
		来期繰越金	1,864,682
		合計	5,324,682

◎基幹論文賞・功労賞表彰
 ●基幹論文賞
 東京都 佐々木 茂美 殿
 昭和5年2月11日生

本会は定款細則第18条により総会の議を経て 貴下の研究活動に対し基幹研究賞を贈り 感謝の意を表します

平成23年6月12日

日本サイ科学会
 会長 佐々木 茂美

●功労賞
 河野 明夫 殿
 (4) 表彰：年次大会時の総会で受賞者を決定する。

研究活動：「相殺零場の発見」
 2要素間に零を造り、変曲点まで活性化して不安定状態を造ると、未知現象が発生しやすくなる事を発見した

学会賞

(1) 目的：本会の理念にふさわしい学術研究、実践活動に対して授与する。

(2) 対象：論文、著書並びに実践活動にたいして。

(3) 選考方法：

(3・1) 自薦または他薦とする。

(3・2) 顧問、会長、理事、専門家で審査の上、理事会で受賞予定者をきめる。

あなたは日本サイ科学会会員(関西日本サイ科学会会長、日本サイ科学会副会長、理事)として 永年にわたり研究と啓蒙活動にご尽力されました
 本学会の輝かしい発展はあなたのご努力におう所が大であります

よって日本サイ科学会功労賞を
贈り表彰し感謝致します

平成23年6月12日

日本サイ科学会

会長 佐々木 茂美



第三百五十八回関西日本 サイ科学会研究集会報告

「東日本大震災と今後の世界に
ついて占星学的解釈と予測」

講師 瀬尾 泰範氏

(日本サイ科学会理事)

とき 平成23年5月21日(土)
ところ 大阪科学技術センター

瀬尾泰範氏は1951年静岡県
生まれ。京都大学工学部卒業後、
航空会社、民間の研究所、予備校
講師を経て、1991年才能開発
研究所を設立。

心理学、占星学による個人の才
能・感性・運勢診断を行い、また
すべての人が持つ心の潜在能力の
研究と開発を進める。日本サイ科

学会理事。

著書「来たるべきアクエリアス
の時代」(潮文社)、「自分の隠れた
才能が見つかる本」(ソフトバンク
パブリッシング)



今回関西日本サイ科学会からお
話しを戴いたときは、「2012問
題」をメインに、世界に対する海
王星の影響力の観点から今後の予
測をさせていただくつもりでおり
ましたが、「3・11東日本大震災」
が起こり、いろいろ調べまして、
世界に対する天王星の影響力の観
点からお話しさせていただくこ
とになりました。

私は以前から関東大震災がいつ
起こってもおかしくないと思つて
覚悟しておりましたので、東日本
大地震が起こってビルの上層階が

大揺れしたとき、予備校で授業を
していたのですが、「あっ、来た
な!」ということでもパニックになら
ずに、ビルの倒壊もないと判断し
てその部屋におりました。

しかし1時間後くらいに携帯の
ワンセグで見た津波は予想外のも
のでびっくりし、またその後報道
された福島原発事故は自分の恐
れていたことが起こってしまった
ので非常に不安になりました。

工学部の出身である私は、以前
から原子力発電にも興味をもつて
いて、調べれば調べるほどその危
険性を知り、京都大学原子炉実験
所助教の小出裕章先生の本を読ん
だとき、原子力のプロが「原発は
止めなければいけない」という主
張をしているのを知って、その思
いを強くしました。

要するにどんな装置でも事故や
故障の起こらないものはなく、原
発が事故つたときには、誰もそば
に近づけなくなるので、修理がで
きず、コントロールが効かなくな
るのはエンジニアであれば誰も想
像がつくことで、その危険性がと
つてもないということを知れば、
原子力発電はできないはずだ。

事故云々の前に原発の放射性廃

棄物の一〇〇%安全な処理ができ
ないので、普通人の理性で考
えても原子力発電は始めてはいけ
ない技術なのに、お金をジャブジ
ャブまかれて、誰も止められなく
なつてしまったというわけです。

これまでも「もんじゅ」や「柏
崎刈羽原発」など重大な事故も含
めて原発事故は何件も起きており
ますが、その重大性は正確に報道
されておられません。

今回犠牲になつた多くの皆様
には大変申し訳ないのですが、日
本人がこれだけの犠牲を払つて、世
界に原子力発電がNGであること
を知らせることになつたと思いま
す。

運命学の基本原理を4つにまと
めますと一つ目は、「パーソナリテ
イ(性格、才能、習慣)が運命をつ
くる」というもので、なぜ西洋占
星学で運命が分かるかと申します
と、パーソナリティの診断に優れ
ているからです。才能診断に関し
ましても、私は「ハーモニクス理
論」を研究していきまして、そこ
から創ったオリジナルチャートで才
能の診断もできます。

二つ目は「人間は潜在意識にお

いて、自分がいつも思っているような人間になる」というもので、三つ目の「内面(心の世界)が外面(現実社会)に反映する」と合わせると、四つ目の「いつも未来を強くイメージしながら、生きる人間はその通りになり、そうでない人間は周囲の人々と環境に振り回される」という法則になります。

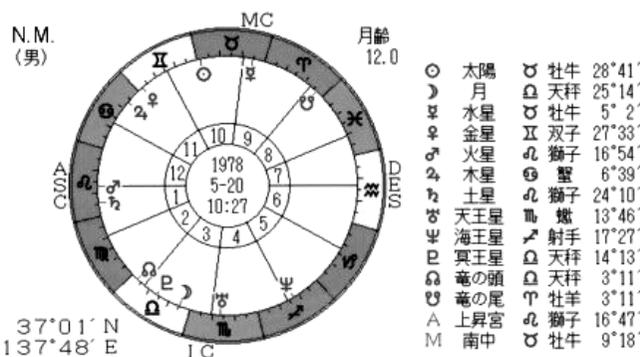
要するに潜在意識では外に働きかけるPK(念力)を四六時中、出していますから、はっきり「こうしたい」というイメージを出している人は外界にそれが形成されることになり、そうでない人は周囲に流されることになります。

以前歌手の永ちゃんがCMで「未来をイメージして今を生きているか?」というメッセージを發していましたが、人間はいつも自分の未来を描いて生きなければいけないよ、と言っていると思うのですが、案外人間は周囲任せになつてしまふので、気をつけなければなりません。

西洋占星学の本格的なホロスコープ診断について概略をお話しします。

「ホロスコープ」とは日本語で

「出生天宮図」と呼ばれており、地球中心で周囲に12星座のある円形チャートの内側に、その人の生年月日、出生時刻、出生地から計算された太陽系の星の位置を割り振ったものです。



生時に太陽が入る星座の性質は、その人の性格の土台となるもので、それだけでもある程度のパーソナリティ診断はできますが、本格的な診断は太陽系の10個の星と2つの感受点がどの星座にあるかもみることになります。

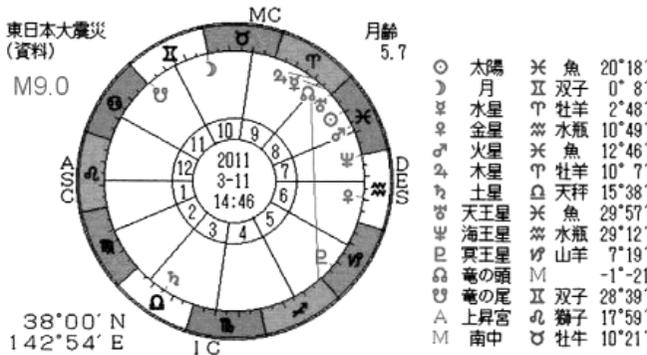
ところで、東日本大震災のときのホロスコープを描いてみてびっくりしたのは、天王星がほぼ春分点(牡羊座の0度)に入った時点で起こっております。春分点はホロスコープの12星座の起点となるポイントであって、天王星は84年で12星座を一周するので、すごく希なタイミングで大地震は起こったことになります。

天王星は水瓶座を支配しておりますが、天王星の影響力が強い方は個人については、人と違うことをしようとする個性の強い方、たとえば発明家とか科学者にもよくみられます。

天王星の世の中に対する影響は数年持続するブームや突然の出来事、事故や地震に関わることが多いのです。

過去のいくつかの大地震で見られる天王星の配置を調べてみます

と、天王星が他の星と、ほぼ同じ位置に来るときに起きやすい、また天王星が他の星とハードアスペクト(地球中心で90度、180度の相互角度)を形成するとき起きやすいことが分かっております。



さらに東日本大震災と同様、19世紀以降の天王星が春分点近辺にある時期を調べてみますと、3期間連続で大地震が起きています。
・1843年4月20日、天王星が

牡羊座に入り、4月25日に十勝沖地震(M8・0、死者46人、厚岸に津波)が起る
・1927年3月31日、天王星が牡羊座に入る少し前、3月7日に奥丹後地震(M7・3、死者2925人)が起る
・2011年3月12日、天王星が牡羊座に入り、前日3月11日14時46分東北地方太平洋沖地震(東日本大震災M9・0、死者行方不明者2万数千人)が起る

天王星の世の中を与える影響力について過去数十年に日本に起こったブームについて、分析してみました。

天王星は一つの星座を約7年かけて通過しますが、その影響力は突発的・先鋭的で世の中をひっくり返す力があるので、ブームなど比較的影響力が見えやすいのです。

たとえば1975年から天王星は蠍座に入りましたが、1981年射手座に抜けるまでの7年間で、1974年のユリゲラー来日をきっかけに、超能力、超常現象ブームが起り、1976年に日本サイ科学会が創立されました。欧米

では、ニューエイジ運動が広まった時期でもあります。蠍座は陰に隠れたものを探しだそう、見えないう力・見えないものを探求しようとする欲求と能力がある星座です。
この時期の私の思い出としては、佐々木茂美先生が教授をされていた電気通信大学の大学祭に行ったときに、当時話題になった「スプーン曲げ」のできる子供達も何人か来ていました。彼らにいろいろ質問したのですが、皆UFOをかなり間近に目撃しているのを見て、驚いたのを覚えております。

そのことについて私の解釈としては、他の進歩した惑星から来た「宇宙人」が人類にこういう能力があるのだから戦争ばかりしていかないで、こういう分野の研究をしないか、ということではないかと思いました。

さらに1977年には、今後占星学の診断で重視されるようになるであろう、「キロン(ケイロン)」という星が、土星と天王星の中間の軌道で発見されております。キロンは一言でいえば、「サイ」の星で私のホロスコープでも東の地平線上にきています。

1981年から1988年まで、天王星は射手座を通過し、この期間日本はバブル経済まった中で、いけいけどんどんでした。射手座の影響力の強い方は冒険が好きで経営者になる方も多い星座です。

1988年から1995年まで、天王星は山羊座を通過し、この期間に日本はバブル経済が崩壊し、世界はソビエト連邦が分裂し、ベルリンの壁が崩れ、東欧の社会主義国が資本主義国に転換しました。山羊座はホロスコープの中で、社会を象徴し、また制限と抑制の星でもあり、山羊座の影響力の強い方は、社会における地位や立場を重視します。

一番注視してほしいのは、1996年から2003年まで天王星は自分が支配している(サッカーで言う「ホーム」にあたる)水瓶座を通過しました。この期間皆さんも記憶があると思いますが、世界的にインターネットが普及した時期です。特に21世紀に入り、多くの女性もインターネットを使うようになり、楽天などのインターネット通販も伸びた時期です。

支配星が天王星である水瓶座は、革新力と個性尊重、通信・エレク

トロニクスを象徴し、水瓶座の影響力の強い方は、縦の人間関係よりも友人等、横の人間関係を重視するタイプです。

2003年から2011年まで、天王星は魚座を通過し、この期間にスピリチュアルブームが起こりました。最初に占いの細木数子氏、そして霊能者の江原啓之氏、美輪明宏氏のオーラの泉、パワースポット、パワーグッズ、私もブースを出したところのあるスピリチュアル・コンベンションなど、魚座が象徴する分野が改めて人々の関心を引き起こしました。

2011年3月12日から始まる天王星が牡羊座を通過する期間は、2018年～2019年まで続きます。日本では初頭で東日本大震災が起こりましたが、その後世界的に目立つ現象は、アフリカのアラブ諸国で始まった民衆による独裁者の追放です。

ここからは予測が入りますが、そのために前回天王星が牡羊座を通過した1927年から1935年の期間の日本と世界の歴史をみてみます。前年の1926年に昭和天皇が即位、1927年に蒋介石の上海クーデターがあり、19

28年日本では治安維持法改正、特別高等警察(特高)設置、そして有名な世界経済恐慌が1929年から始まります。1931年満州事変、1932年上海事変、日本では五・一五事件、1933年ドイツにヒトラー内閣が成立し、ナチスのユダヤ人迫害が始まります。日本は国際連盟を脱退しています。

この時期日本と世界は第2次世界大戦に向かって、対立を深めているのが不気味ですが、天王星の牡羊座通過の影響力を考えますと、牡羊座の戦闘的な特質から、社会の中での闘争や世界における戦争、大いなる経済混乱などネガティブ面での心配もあります。また今回の東日本大震災のように、自然の大災害を引き起こすきっかけもつくります。

牡羊座は12星座のトップにあり、身体で対応するのは「頭」なので、天王星がそこに入るといふことは、いい意味でも悪い意味でもこれまでの世の中の仕組みや秩序をひっくり返すパワーをもっていることになります。

海王星の影響力を考える前に、冥王星が自分の支配星座、すな

わちホームである蠍座を通過した(冥王星の最高のパワーを発揮した)1984年から1995年の期間について、考えてみます。

この時期、新興宗教が盛り上がった時期で幸福の科学やオウム真理教が会員を大幅に増やした時期です。1985年に出版した私の著書「来たるべきアクエリアスの時代」でも、いくつかのテーマの中で宗教も詳しく取り上げております。

さて、海王星が自分の支配星座である魚座に一旦入ったのが、今年(2019年)の4月4日から8月5日までで、一時水瓶座に逆行した後、2022年2月3日から2025年3月30日まで約13年間継続して魚座を通過します。

この海王星がホームを通過し、最高のパワーを発揮する期間における影響力を、西暦701年以降、1862年まで8回あった海王星魚座通過期間における日本と世界の歴史を分析してみます。

- ① 701年～716年
- ② 865年～879年
- ③ 1029年～1043年
- ④ 1192年～1207年
- ⑤ 1356年～1371年

- ⑥ 1520年～1535年
 ⑦ 1684年～1698年
 ⑧ 1847年～1862年

これらの期間から共通の事象を分析しますと、①～⑧のすべての時期において、古い国家体制が瓦解し、また世界史においてもかなり重要な新しい国家、新しい政府が生まれています。

また③、⑥、⑦の時期には宗教を土台にした集団のパワーが強く、政治的なパワーを発揮しています。

⑦、⑧の時期に代表されるように自然科学の父と言われるニュートンの『万有引力の法則』の発見から本格的な科学が発展し、ダーウィンによる『種の起源』から、聖書を離れた進化論が始まったように、科学・文明のエポックメイキングがありました。

以上を鑑みますと、占星学的に判断して、2012年以降2025年までに以下のことが始まり、日本と世界を変えていくことになると予測します。

◎人々が現在よりもっと精神的なもの、見えないもの、スピリチュアル面に目を向けるようになり、真の生き甲斐を求め、利益追求で

はない社会的な活動に多くの人が赴くようになる(現在特に米国でその萌芽が見られる)。

この期間前半は人物・組織とも玉石混交だが、後半に本物が残っていく。

◎科学・技術も現在のエコ志向がもっと高まり、自然エネルギーだけでなく、空間エネルギーも含めた画期的エネルギー発生技術が生まれる。それは、車や航空機等の移動手段に大きな変革を生み、さらに人間型ロボットである「ヒューマノイド」のエネルギー供給にも使われ、日本では少子化による労働力減少を補うヒューマノイド社会が先行する。

日本における人口減少↓労働力減少、老人・障害者介護問題の解決がされる。

◎現在の脳科学に対する関心が発展して、人間の潜在意識、潜在能力への関心と研究が大きく進展する。装置の開発や実験によりそれらが科学的に実証され、一般の人々の理解と訓練・応用が進む。

医学も心身一如の把握が進み、ホリスティックな方向性により先進的な装置も開発されて、予防医学体制が進む。

一般の人々が使える脳力開発装置、予防・治療装置が種々開発され、信頼・認知を得る。

◎多くの国で国家、政治体制が揺らぎ変動し、新しい国家、政治社会形態が模索され、先進国から変革が起こる。中国や北朝鮮の政治体制も変革が起こる。

テロや動乱も続き、完全な世界平和まで道は遠いが、共存共栄が模索される。

☆ ☆

占星学について詳しく話して頂いた。現在の自分だけを考えると星と未来とは関係ないように思ってきたが、別の観点からすれば、未来の事項も含めて全ては決定されており全宇宙は全て関わりあっているのかも知れないとも思ってくる。

当日の参加者は会員15名、非会員17名、合計32名でした。今回のカセットテープは2000円(送料込み)です。

ご注文は関西日本サイ科学会事務局木村(電話0797・22・6425)まで。

第三百五十九回関西日本サイ科学会研究集会報告

「科学と霊性の融合する時代」

講師 サアラ氏

とき 平成23年6月18日(土)
 ところ 大阪科学技術センター

サアラ氏は宇宙の記憶を持って生まれ、14才で宇宙人とコンタクト、予知透視能力が全開。17才で出会ったマスターの指導で自己回帰の道にシフト。その後、スピリチュアルな人生を提案する「Super Life Gallery」を設立し主催。精神世界の科学で奇跡を起こす「No point」を開講。今後の地球に関する情報会などを開催。

著書「宇宙セントラルに吸い込まれる地球 アセンションの超しくみ」ヒカルランド。

古代文明の神官達は天文学者、数学者であり詩人であった。物事の探求を科学と霊性の二つの方法で行ってきた。シュメール文明でも歳差運動の周期の26000年

を知っていた。やがて科学と霊性の分離により科学技術を失い貧しい生活になる。

これからは科学と霊性が融合する。それは貨幣経済が人にチャンスをもたらすと共に真実から遠ざけるからである。イエスや仏陀の世界は科学的宇宙観である。

☆ ☆

私サアラは宇宙人の意識を持って生まれてきている。今は宇宙人であるということが大っぴらに出来る時代になった。

朝起きたら8kg痩せていたこともあるなど一般の方と肉体的にも多少違うところがある。

現在ET、ソウル、ワンダラーと呼ばれる人が地球上に10億人以上おり珍しい存在ではないが宇宙人の意識に目覚めているかどうかは分らない。

私の場合生まれた時から生まれる前の意識を持っており、視覚聴覚の意識が一般とは異なる。

小さい時は三次元世界よりも四次元世界がはっきりしていて、天女、マリア、ヨゼフなどが仮の姿で毎日現われ、一緒に遊んだり、

教わったりしていた。ほかの人は見えないので周囲は私が何をしているか分らず困っていた。

三次元の世界ははっきりわからず、よく物につまずいた。母もはっきり分らなかったので家族でない人と手をつないで、迷子になったこともある。

ある年代まで育ったある日からスイッチして三次元世界の方がはつきりし、四次元世界がぼんやりしてきた。それから普通の人間としての人生になった。今は両方の世界になれている。



私のことを似非科学者という人もいるが、そういわれるひとに「水からの伝言」の著者江本氏がおり3月に話したが彼はすばらしい。二人で話した結論は人間一人ひと

りのパワーは素晴らしい。ということであった。

かつてここにムー大陸があった。人が記憶していることは実際にあったことでありやがて証明されるであろう。

それらのことを催眠術をかけられて喋りだすことがある。人の小脳の中の情報は大腦よりも大量にあるからである。

過去にはムー、レムリア、アトランティスなどの時代があり、やがて歴史に現われるシユメールチグリス、ユーフラティスと続いた。

一般にははじめの時代はイメージでは素朴な感じを持つが、そこにはすばらしい文明があった。

その時代にはコンピュータ制御された水の灌漑施設等もあった。私は古代エジプトで行をする家系に38回生まれており、この記憶は明確に残っている。

当時巨大なホストコンピュータがあり手許にはパソコンはあり、画面はホログラム3Dで空中に出る。パソコンは今のものより小さくしかも只であった。

当時脳科学も進んでおりピラミ

ッドの壁画の中に脳の手術の絵や頭に電極をつけて治療しているものなどが見られるが、それらに混じってパソコンらしきものが見られる。

教育システムは今とは全然違っており皆が優秀であった。

中世になると逆に退化した感じである。地球には1億3千年前からいろんなグループの宇宙人が沢山降りており、中には地球人を支配しようとするグループもあり、目的達成のため暴力なども使って実験している。ただ宇宙には善悪の基準・判断はない。正義をふりかざすと誰かが傷つく。

レムリアでは精神性が高く、所有の概念はなかった。物欲が無く、スピリチュアルな面が高く科学の探求を行っており科学とスピリチュアルは一体であった。

アトランティスではエコノミストが主となり、経済性と科学を追求している。

天体や自分の外側は自分の素粒子と共振することを知っており、宇宙を知り、自分を知るために科学、天文学が発達し、天体を観察して自分の将来を予測していた。

やがて所有している者は誰か。労働と対価の問題を作り、一部の者が権力を持つことになる。

中世までは科学と霊性の間は分れていなかった。当時の支配者である教会が科学書を制約し禁じていた。

デカルトの二元論は科学とは何か。科学者はどうあるべきか、疑う眼を持つこと、実験による裏づけ根拠の必要性を論じ、それからそれまで融合していた科学と霊性が分離する。

このような流れが科学を無機質な味気ないものにしてしまった。これが江本氏を似非科学者としてしまうような流れに繋がる。

アンダーグラウンドの世界では種々の技術が開発されているが中々表にでない。フィラデルフィア実験では時間空間の瞬間移動実験があり、中には火星への移住者を見たり、地球製UFOの見聞もある。

フリーエネルギーの技術も実用に近づいているが、それら将来の技術が開発されると困る人が居り、

そのグループが開発を妨げている。

本来小学校から量子力学を教えるべきである。ニュートン力学は日常に出会う重力の世界の問題であるからことさら教える必要はないだろう。

量子場と重力場は根本的に異なる。宇宙の世界は量子の世界であり、面白い振る舞いをする。実験して結果を出すのは膨大な装置が必要で金がかかる。

量子の世界観は仏陀も教えている。量子場はニュートン力学の世界ではない。電子は波の性質を持ち分身の術のように同時に存在しているが人が観察すると粒になる（今の私は霞のような電子を見ることができる）。

夫々の人生において未来は別々のタイムラインがあり、それは今ここにある。

自分の意識でタイムラインが変わる。移動もある。自分をどう思うかによって自分が影響される。自分は足が長くて見た目によいと思うか思わ

ないかによってタイムラインが変わる。

つまり日々の考え方で生活が異なってくる。夫々の意識が支配する世界である。

自分はどのような人生を送ろうとしているのか。どのようなタイムラインを取ろうとしているのか。悔いの無い生活を意識することが大事である。

☆ ☆

今回は質疑応答の時間が充分あり、いろいろな質問が出て皆さん満足しておられた。その中でも生まれ変わりに当たって数人の魂がミックスされて生まれてくることもあるという話が印象的であった。サアラさんがエジプトで生まれ変わった時は魂のミックスはなかったということである。

サアラさんは見た目には一般の人と同じであるか。過去の転生前の出来事、四次元世界のことなどを日常生活のように語られていた。時代の変化が身近になってきたことを感じたことである。

なお当学会の創始者である故関

英男博士は論文で「科学と宗教は一致するものであること、人は宇宙の創造主または宇宙の頭脳センターでコントロールされていること」とについて述べられている。

当日の参加者は会員17名、非会員52名、合計69名、手話通訳2名でした。今回のカセットテープは2000円(送料込み)です。

ご注文は関西日本サイ科学会事務局木村(電話0797・22・6425)まで。

今後の予定

11月12日(土)塩小路光孚氏「菅原

道真公の知られざる秘話、篆書

(てんしよ)の持つパワー、たつ

(龍・竜・辰)の字の不思議」

12月10日(土)忘年放談会

1月21日(土)檀上洪司氏「スピリ

チュアルの世界を探るー潜在意識から宇宙意識へ」

2月18日(土)徳永康夫氏「宇宙か

ら見た般若心経」

(関西日本サイ科学会会長

河野 明夫)

けない中性の素粒子群が必要である。中性というのは(正、負の和が零)を意味する。上の5)の(5)から推定出来る様に、発功時の経穴からは電子(光子、 e^-)、チャクラからは(微細身素粒子、オーラ)が放射されている。これらのパルス状放射が、周辺にある γ 線(低線量放射線)と作用して、(c)として、陽電子(e^+)を生み出し、経穴から放出される電子(e^-)、とこの陽電子(e^+)が組み合わせられて中性のサイ(PSI-pair)を形成する、と考える事にした。なお、これの裏付けとして、念力(PK)の生起しやすい気場(外気集積地)として知られている断層などでは、高い低線量放射線(0.12Sv/hr程度)が測定されている。またそこにはバックグラウンドとしての低線量放射線(0.04Sv/hr)もある。経穴(主として光子群)からパルス状に放出される電磁波(光子、 e^-)は、不確定性原理により、極短時間(Δt が小)の時は、エネルギーは極大(ΔE が大)となるので、 γ 線を駆動して陽電子(e^+)を産み出す事は可能であろう(γ 線からの対生成)。さらに、これらの裏付けとして、自然環境の中で、比較的安定に存在し得る素粒子は電子(e^-)である。そして、これらの諸変化は極短時間(Δt が極小)に行われるので、見かけ上は、経穴(e^-)やチャクラ(微細身エネルギー)から、サイ(気、PSI-pair群)が放出される様に見えるのであろう。つまり、経穴やチャクラからは中性(零)としてのサイ(気)の放出・吸収があると考えている。このサイ(気)は、電子、陽電子、微細身素粒子から成り、これをPSI-pair群、PSI-spin群と呼んでいる。換言すれば、低線量放射線として環境に存在している γ 線の消失に関係する陽電子(e^+)と経穴から放出される電子(e^-)とを組み合わせたもの、さらに是をより安定化する為の陰性ならびに陽性の極性を持つ微細身素粒子(エーテル、チャクラから放出)がPSI-pairを取り囲んで、より安定なサイ(気、PSI-air群)を形成している(総合和で零)。さらに、微細身エネルギー(オーラ)は零意識状態の生体のチャクラ(エネルギーセン

ター)から発功時により多く放出されると判断している。

以上、発功時の経穴(e^-)やチャクラ(微細身素粒子)からは、見かけ上、中性の外気(サイ、PSI-pair群)が放射されており、これが(b)として直接原子の原子核に作用して、 γ 線等の高エネルギーを放出させている、と考える事が出来よう。

7) 零場の形成方法

アルミ板(メタル)の引張り試験片に載荷重方式で力を加えて、念力(PK)生起のエネルギー条件を求める為の実験を行った。試験中の試験片の念力生起の局部には、相殺零場が形成されている。相殺零場とは、内力(発生する内部力)と外力(外から加える載加重の力)とを拮抗対峙させた局部の接触点で零になる範囲(部分)を言う。実験によると、載荷重を次第に大にしてゆき(零が大になる)、試験片の性質が変わる変曲点(降伏点)に達すると、未知現象が生起しやすくなる事がわかった。載荷重方式というのは、オモリ(分銅、荷重)を一つ、一つ載せて、力(荷重)を加算することであり、いくら慎重に行ったとしても、載荷重の瞬間の衝撃力が試験片に作用する筈である。静的な力とこの衝撃力の比は、最大で2~3倍もある。つまり静的に作用させる場合の内力よりも2~3倍もの余分な力が試験片の内部に生じ、これを補うために、局所の内部では、2~3倍の衝撃に反発する力が発生する。この衝撃反発力が零点における未知現象生起に関係すると判断している。これを、二要素間に生ずる摩擦の場合に置き換えて考えてみる。摩擦力に対する逆方向摩擦力が、もし、これが負性の時は、乾性摩擦つまり反対方向摩擦となり、現象をさらに進行させる方向に摩擦が働くことになる。これに類する現象が、念力の進行する過程にも影響する。同様に「ゆらぎ」又は「カオス」にも関係する、と判断している。

(むく)、サイコロ板の原子の価電子数、アルミ板の原子核の影響、アルミを基準とした時の銅や銀の原子核の影響。鉛、ヘキサメチレンテトラミン、二酸化ウラン等との比較検討、ならびに原子核の安定度との関係。これらの多項目にわたる系統的な実験と解析から、結論として、サイは原子の中の原子核に作用して同位元素としての不安定な中性子からエネルギーを得ていると結論した。つまりPKの対象物質の原子核の中から念力生起の為のエネルギーを得ていると結論した。

(4) 中国人体科学会誌の編集局長のRunloong ZHUらは「人体科学における最新の進展状況」の題目で、18年間にわたる中国人体科学会の研究状況を報告している。本稿に関係した部分のみを紹介する。発功に伴う生体からの放射を、(4-1) 特異放射と(4-2) 気功外気放射に分類している。結果として、(4-1) では、IL700型放射線検知器を用いて直接感知したところ、幾人からは、360MHz(最大値1GHz)の電磁波が測定された。また熱ルミネセンス線量計(Type FJ-369)では、最大放射線量として、120mRをえた。(4-2) として赤外線、高エネルギー粒子、静電気、磁気等が測定された(ISLIS, Vol.17, No.2, 1999, pp.244-263)。

(5) 電子(光子群)等の放出が認められた。

(5-1) 新技術開発事業団(生物フォンプロジェクト)の宇佐史らの報告によると、気功師の発功に伴って鋭いパルス状の生物フォトンが計測された(1989年、日本・人体科学会設立総会)。

(5-2) 上記の(4-2) 参照。

(5-3) 日本念写協会の宮内力、福田豊によると、MK師を被験者にしたとき、暗箱内にパルス状の物理光の湧出しが認められた(1977、念写。念電現象の物理学的研究、日本念写協会)。

(5-4) 日本サイ科学会の佐々木茂美、小川雄二らによると、MK師を被験者としてサイ実

験を行ったとき、暗缶内に光子群(念球)のパルス状発生が生じた(サイ科学、Vol.2, No.1, 1977, pp.7-14)。

以上から、発功した時の気功師の皮膚から間欠パルス状の電磁波の放出があった、と判断する事が出来よう。

6) 実験結果の検討と考察

以上の5)の(1)~(4)の実験結果は、放射線エネルギーとマクロPKとは関係が深い事を暗示している。しかし、マクロPK生起の際に、被験者の生体からガンマー線(γ 線)程度の非常に強い放射線が放出される、とは考え難い。しかし、現実の実験では、推定できない程の高い値のエネルギー値が測定されている。これをどの様に判断すべきか? 結果として、念力(PK)は原子核崩壊(原子変換)並びに放射線エネルギーに関係していると考えことにする。周知の様に、放射性物質は、原子核の中に余分な中性子を含み、不安定な状態にあり、自然の環境条件下で β 線や γ 線などのエネルギーを放出して安定化する。これを原子核崩壊(自然崩壊、原子変換)という。また、ガンマー線の生成・消滅には約500keVのエネルギー変化が必要であり、ふつうは、3通りの方法を用いる。一つは(a) 一對の電子(e^-)と陽電子(e^+)を対衝突させて γ 線を生成させる場合、並びに、(b) 不安定な原子核を励起させて γ 線エネルギーを放出させる場合。これとは別に(逆に)、(c) γ 線をミクロの真空中に放射したときに電子(e^-)と陽電子(e^+)が対生成される場合、のある事が知られている。マクロPKの場合には、(b)の原子核の励起と(c)の陽電子(e^+)の生成がおもに関与しており、これを駆動させるのにサイ(外気)が必要である、と考える。原子核は陽子と中性子からなり、球状で(+電位)をもつ。そして、外側にあつて、(-電位)の壁の役割を果たす雲状の電子に囲まれて、一つの原子として存在している。従つて(b)のように、外部(外側)から原子核を励起する為には、(-電位)の電子雲の抵抗を受



〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 日本サイ科学会発行

電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp

公式サイト <http://homepage3.nifty.com/PSIJ/> ML申し込み先 office21@psij.mail-box.ne.jp

未知能力・現象の出現状況(2)

佐々木 茂美

5) 生体からの外気放出

零意識状態(現象生起時のASC)に入った時の能力者の経穴やチャクラ(エネルギー・センター)からは、未知現象生起時に、パルス状の様々な電磁波の放射が測定されている。

(1) 上海原子核研究所の顧函森は、有名な趙偉気功師が発功・放射した時の外気信号のエネルギー分布曲線を、フィルターによって赤外線から紫外線までを除去した放射線計量器(シンチレーターと光電子増倍管から構成)を用いて計測した。結果として、放出された放射線は1~9eV範囲内の約4.2eVにピーク値を持つエネルギー分布である事が判った(1986年9月19日~22日、上海、第1回国際気功セミナー)。

(2) 中国科学院高エネルギー物理学研究所の陸租蔭は、1987年に、高名な嚴新気功師を被験者として、放射性物質の原子核崩壊速度と外気の関係を知る為のテストをした。体外の物質「不安定な中性子を持つアメリカシウム241」に外気を直接放射してその変化を調べた。ただしAm241の半減期(自然放出により、1/2に崩壊する)は458年であり、 α 粒子(ヘリウム)、 β 線(電子)、 γ 線(電磁波)として、59.6keV(26.4+32.2eVなど)を放出してネプツニウム237(Np237、半減期 2.2×10^6)に変化する事が判明している(陸租蔭

の説明)。テストは87年9月10日(第1回)と10月6日(第2回)、発功は各20分、各1,2,3,4次テスト、合計32試行であった。結果を見ると、原子核の崩壊速度は(正)側または(負)側に変化している。一般には、崩壊速度は不変であると言われているが、発功・放射によって自然崩壊とは別の崩壊速度の加速並びに減速の変化が生じている。

(3) 外気(サイ)が直接PK対象物に作用したと考えられる場合がある。念力(PK)の対象となる物質を構成する原子核の中の中性子が、被験者の意念に従ってエネルギーに変換されてマクロPK現象が生起した、と考えられるものを紹介する。スウェーデン人のH.Forwaldが、米国のDuke大学で1950年代に行った16mm角のサイコロ投下のマクロPK実験が、超心理学会誌に印刷・報告されている。実験は、サイコロを落としながら被験者が念力を作働させ(精神統一して念じる)て、落ちる場所を決める、という内容である。多数回行われた実験結果にはt検定などの統計処理が実施されており、サイコロに働く念力をエネルギーに換算して表示している。PKの結果に及ぼす影響因子として、木材(赤ぶな)を用いた時のサイコロの表面の粗さ、そのサイコロに貼り付けるアルミ板の厚さ、サイコロ全体をアルミにした場合